



●新年を迎え、3学期スタート

明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



さて、「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われるように、あっという間に過ぎ去っていく3学期は、短いながらも1年間の総仕上げや、進級に向けての準備を整える大切な時期です。

12日(木)には国語・数学・英語のチャレンジテストがあり、冬休み中に各教科の過去問に取り組んだ成果を発揮してほしいと思います。

難易度は高くはないので、落ち着いて問題文を読み、意味を理解することが重要です。

選択式問題は当てずっぽうで答えるのではなく、自分で求めた答えを選択肢から選びましょう。

また、短い語句や数値等で答える短答式問題や記述式問題は、わかりやすい表現を使い、ていねいな字で書くことをこころがけましょう。

HBの鉛筆又はシャープペンシルを数本
消しゴム、直定規、コンパスが必要です

また、今月は「思春期の自分の心と体を考える」という命の学習を実施します。まずは、「生まれたときのわたし」というプリントに沿って、各家庭において、生まれたときの様子やご家族の気持ちを聞いてみてください。

命の学習を通して、「人はみなそれぞれ違いがある、かけがえのない存在であること」「個人差があっても当たり前で、自分を認めて自信を持って生きること」「他者と認め合うこと」を目指します。

●主体的に生きる

皆さんは、北野武^{きたのたけし}という人を知っていると思います。国内外で映画監督や俳優として知名度が高い彼が、ここまで成長できたのは、子どもの頃に父親からあることで^{はげしく叱}られたからだそうです。

彼が小学3年生の頃、親戚に不幸があり、電車に乗って静岡に行くことになりました。

行きは、夜行列車の三等という一番安い電車で、床にはゴミがたくさん落ちていました。

電車の中で彼は^{あめ}飴を食べ、包み紙を平気で床に捨てていましたが、その時父親は彼に何も言いませんでした。

帰りは、特急の展望台付きの電車に乗りました。行きの電車と違って、ゴミもなく非常にきれいな電車で、父にもらった飴を食べた彼は、包み紙を床に捨てず、ポケットの中に入れました。これをじっと見ていた父は、彼が包み紙をポケットに直した瞬間、怒り始めました。

「お前は、周囲がゴミだらけだと平気で包み紙を捨て、ゴミ一つ落ちていないと分かると捨てない。お前は、環境の奴隷となっている。そんな主体性のない人間になるな。正しいことはどんな状況でも正しいのだ。」

と大声で叱りました。そして、その後で

「お前がゴミを捨てれば誰かが拾うことになる。そんな^{あつか}気遣いのない人間になってはいけない。」

と北野少年を諭したそうです。このできごとが今の自分を作ったと彼は言います。

働くというのは、「はた(=周りの人)を楽にする」からきているそうです。「こんなことをしたら迷惑をかけるからやめよう」「こうしたら相手は助かるだろう」と考えて行動すれば、働いたことになります。皆さんはどうですか。

周りがうるさければ、自分もしゃべる。静かなら、自分も静かにしている。そんな態度で授業を受けていませんか。

人がするから自分もする。人が言うから自分も言わないと損だとそれに乗じて言う。そんな生き方をしていませんか。

主体的に生きるとは、勝手な行動を取ることではなく、周りを気遣う心を持って生きることです。生徒の皆さんはまだ職業についていませんが、働かなくていいのではありません。

今年は、日々の生活の中で周りの人達を気遣い、働く人間に成長してください。